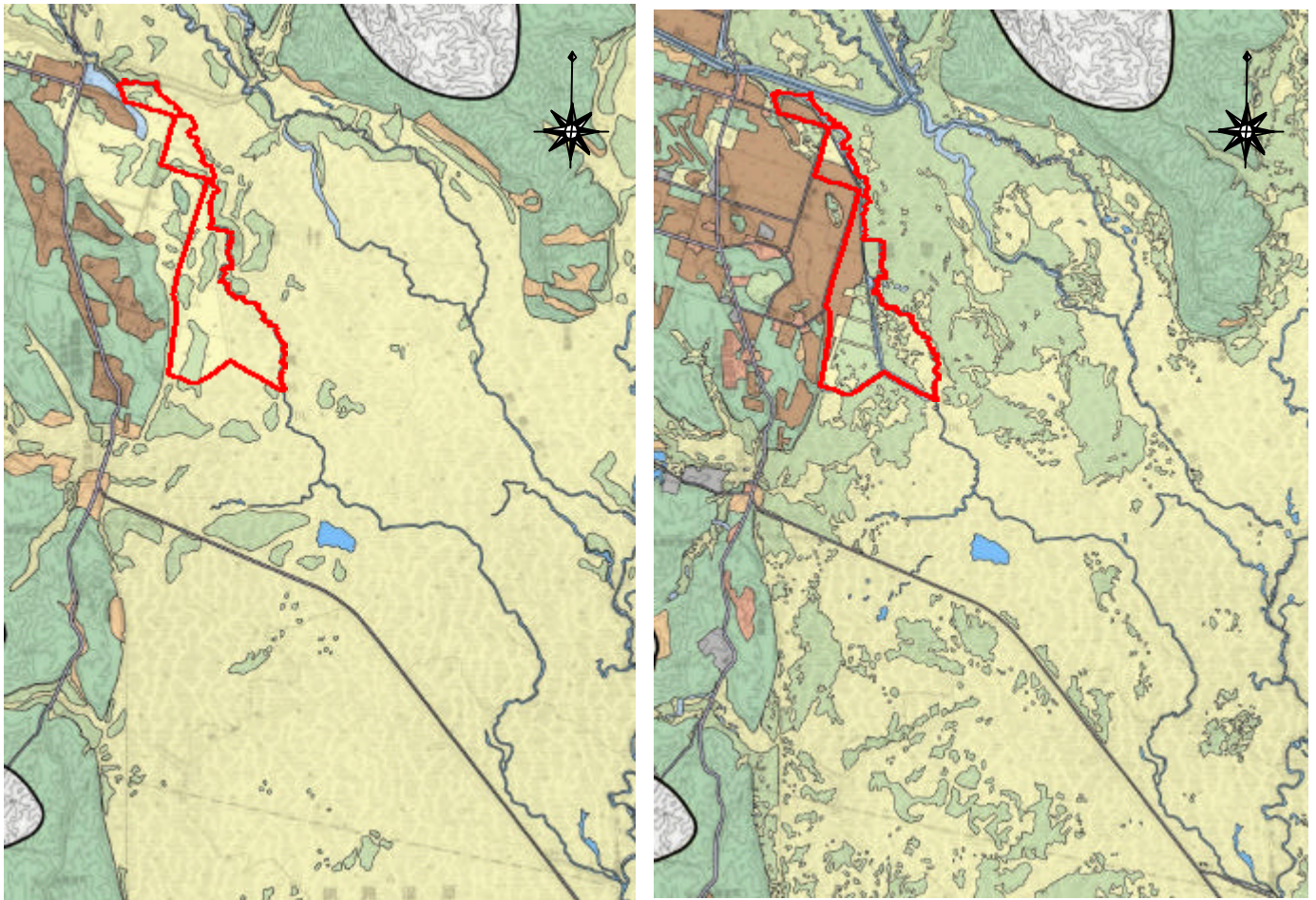













4) 下幌呂地区周辺の植生の変遷

下幌呂地区周辺はハンノキ林、ヨシ群落、畑地（牧草地）が主体となっている（図 5-9）。1947年と1996年の植生図と比較すると、ハンノキ林と畑地の面積が急激に増加していることが分かる（図 5-10）。特に旧幌呂川沿いで農地開発が著しく、湿原域が農地へと転換されている。また、幌呂川、雪裡川沿いの直線化された河道周辺とその下流ではハンノキ林が増加しており、ヨシ群落の面積が減少している。ハンノキ増加については、個体数が増加したのか、小さな個体が急激に成長した結果なのかは不明である。



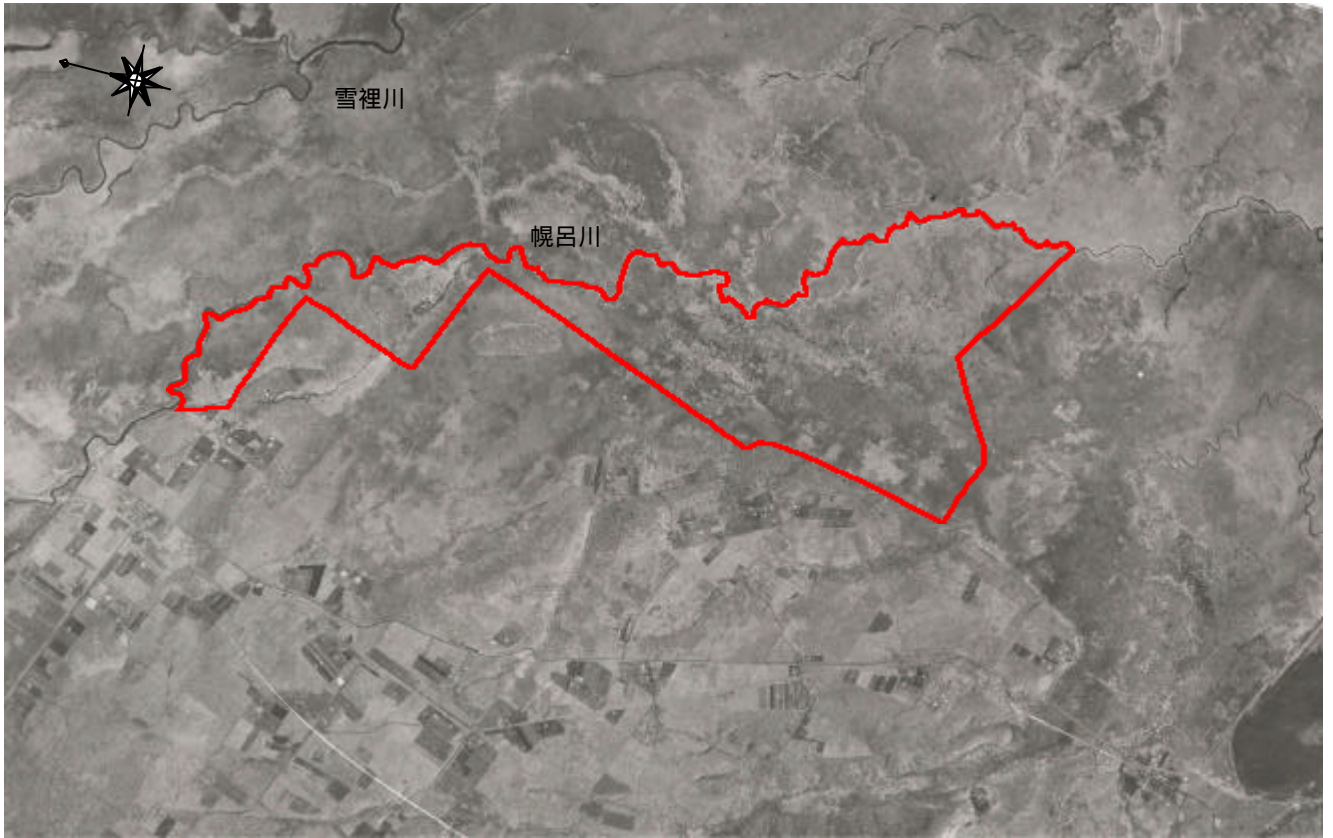
1947年 植生図

1996年 植生図

凡		例	
	湿原再生箇所		畑地
	ハンノキ林		裸地
	ヤナギ林		宅地
	山地林		道路
	ヨシ群落		開放水面
	ササ草原		

ヨシ群落にはハンノキ林以外のヨシスゲ群落、高層湿原などが含まれる。

図 5-9 下幌呂地区周辺の植生図



1947 年



1992 年

図 5-10 1947 年と 1992 年の空中写真

凡 例	
—	河 川 区 域
—	湿原再生箇所
—	地下水位観測孔

5) 下幌呂地区湿原再生箇所の植生変化について

下幌呂地区は、格子状に排水路が掘削されており、一部は近年まで牧草地として利用されていた。未利用農地には主にハンノキ群落が発生している。

農地と湿原の境界部分には樹高 10m 程度のハンノキ林が分布し、林床にはヨシ、ミゾソバ、ホザキシモツケ等が繁茂している。地下水位は比較的高く地表より-15cm 程度であった（7月調査時）。また、地区南側は地下水位が高く、ハンノキの低木が散生していた。牧草地跡は主に既存道路沿いに分布し、牧草種が繁茂している。地下水位は地表より-30cm 以下であり、ハンノキ林の地下水位よりも低かった。土壌は概ね 30cm よりも深い位置に泥炭層がみられた。

幌呂川旧川はほとんど流れがなく、地区の排水はやや不良であると考えられる。






ハンノキ群落



牧草地跡



1992 年

凡 例	
	河 川 区 域
	湿原再生箇所
	地下水位観測孔